



横須賀製鉄所よもやま話

「英国から出荷された工作機械は400トン」

横須賀の現在・過去・未来を考える会(GKM)
代表幹事 毛利邦彦(毛利塾塾長)

GKM 1月号は絵や写真を多くとの声が届いた。確かに写真やイラストなどのほうが中身を理解しやすい。心がけて第2号を発信します。国指定の重要文化財スチームハンマーを含めてイギリスグラスゴーから400トンの工作機械が1866年2月16日に出荷した。肥田浜五郎は幕府の命を受けてROTTERDAM社に発注した後だったので、「晴天の霹靂」だと思っただろう。すでにグラスゴーから船積みされた機械を再度荷下ろしをして性能確認を要求するヴェルニーとの対立に柴田日向守は妥協案を提示として横浜製作所に受け取り試験を実施した。その性能に満足したヴェルニーは肥田浜五郎との確執は氷解したのだろうか？ 未だスチームハンマーはオランダ製と居る人が多いが「英国製」です。英国の技術誌(新聞)「THE ENGBEER」1866年2月16日号(P134)を参照するか、横須賀市自然・人文は博物館64号(2023年3月発行)を参照ください。

「三浦半島の文化を考える会」主催の講演(毛利代表幹事 3月14日@ヴェルク横須賀 13:30分開始)があります。この講演は夏島に存在した極秘の風洞実験装置の仕様と役割を検証した新発見の発表です。多くの人に参加して頂きたい。永久淳雄幹事と発見した詳細報告です。
2026年2月55日記

「横須賀製鉄所建設現場から」レポート②

日曜日は休み？

今日藪入り・祭礼等の休日と西洋的「休日(祝祭日)・日曜日(安息日)」とが混じり合って違和感もありますが、幕末の慶応年間では全くの別物でした。

横須賀製鉄所内フランス人の理由で「休日」となった初見は、慶応2年9月6日(1866年10月14日)「今日ハドンタクニ付絵図引なし」です。「ドンタク」用語の初見であると共に、日本人製図トレス職人も同時に休業した初見です。その後「ドンタク」事例は、11月13日に「今日異人ドンタク」とあるのが2例目です。これらはフランス人のみの安息日(日曜日)の意味であって、彼等は既に定期的に日曜日に休んでいたことがわかります。そして、日本語で「日曜日」とある工事現場での休日初見は、慶応4年(明治元年)9月10日です。その前後を見ると、9月3日と17日がドンタク休日、24日が日曜日休日とあるので、この時には西洋の日曜日概念と実際の職人休日が既に一致していたのです。その日曜日はフランス人だけではなく、同年閏4月3日に「ドンタクニ付諸職休日」とあるように、日仏一斉に休んでいたことが明らかです。いずれも7日毎に日曜日の風習が定着していたのです。明治5年に太陽暦が導入される以前、横須賀はこんな社会だったのです。(つづく)

(元横須賀市自然・人文博物館学芸員 安池尋幸)(原文のまま)

GKMから一言

安池さんからは沢山の横須賀製鉄所の第一次資料をベースにした話を頂いています。横須賀製鉄所に関する質問はいつでもお受けしますので、ご連絡ください。「ドンタク」はオランダ語「zondag」(「ゾントーク」)日曜日、休日。

GKMの月報は会員以外にも無料で配布します。

◎Wattandedison にアクセス。◎「歴史・博物館」をクリック◎横須賀の現在・鹿児・未来を考える会を開く◎GKM月報の1号から閲覧できます。(PDF)

ここから読めます
ブックマークしてください

インスタを開けました。



@MOURI_KUNIHICO

風洞おじさんの独り言②

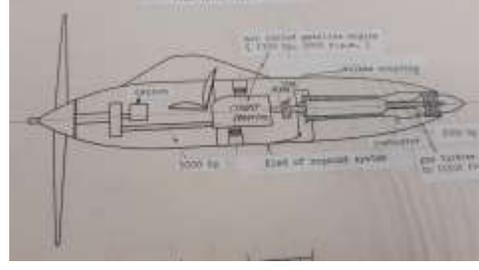
海軍航空技術廠は空技廠と呼ばれ、旧海軍の航空機の研究・開発・設計・試作・審査などを担う組織だが横須賀の追浜、浦郷、夏島地域に広大な実験施設があったことは余り知られていない。昭和7年に設立された機関である。空技廠に横須賀の冠名がないのは「横須賀」にしかこの施設がないので「空技廠と言えば横須賀」と理解されたからと。昭和20年2月15日に第一海軍航空技術廠と改称された。横浜市立大学、旧東急車両の敷地は空技廠の支廠昭和16年4月1日に設立され航空機の部品や兵器の開発などおこない約3が余りが働いていた。飛行機開発には風洞が重要な実験施設で大小合わせて11もあり、その中で中型風洞は「ゲッチンゲン型(循環型)」でゼロ戦の空中分解の原因であった「フラッター」の解明を行った。この風洞は科学部が所掌したが、原動機の開発・実験は発動機部が夏島に移動して、国産初ジェット機橘花のエンジン開発、秘密兵器の開発に関する実験が行われた。実験の成果については、種子島氏の論文のコピーを第1回から第13回まで収集した。謎の巨大風洞の詳細を詳らかにしたので3月14日にヴェルク横須賀にて「三浦半島の文化を考える会」主催で講演会が予定されている。次回は空技廠の施設の今。(永久、毛利)



夏島の巨大風洞(正面)



風洞位置(永久作成)



種子島論文より



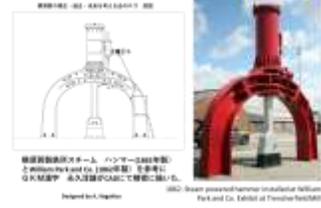
江沢暁彦作品展② (浦賀)
浦賀は江戸時代奉行所があり三浦半島の中心として栄えた。横須賀造船所建設後、衰退した浦賀造船所は近代的な造船を行い存続した。国産初の近代的帆船「鳳凰丸」(1854年)は「ふね遺産」に認定されているが実物はない。衰退した浦賀に渋沢栄一らが浦賀船渠を設立し繁栄を取り戻した。「レンガのドックはふね遺産済。この作品は「国際モダン芸術展(IMA)」で東京都知事賞を獲得した。



面白写真②
「奇跡的芸術的完璧な車庫入れでスノー!!!!!!」
久しぶりの積雪、表よを見ると芸術な書庫入れ(星野)



GKMのポストカード(2月)



フランス人医師サヴァチエの生涯②
サヴァチエの生誕地はオレオン島。フランス語ではîle d'Oréon。この発音はオレオンには聞こえない。1830年に生まれ、61歳故郷でリューマチにて逝去した。日本では医者より植物学者としての名声が高い。Japan Weekly Mail (1876年1月12日号)の送別会の記事に、植物図鑑「Flora of Japan」の出版に三条実美太政大臣が賛辞を送ったと掲載している。この出版本が横須賀市自然・人文博物館に展示されていることは知られていない。三浦半島で発見された植物には助手の「zz」に因んだ名前が付けられている。サヴァチエの本分の医師として功績を次回から紹介する。(江沢暁彦)



横浜開港資料館にて閲覧できる。

会員紹介②
大橋美保子 GKM 幹事
汐入小学校前でカフェセフィーロを営む。コンサート、講演会などを企画。金、土、日の営業(PM1~5)
音楽家

毛利塾からのお知らせ
3月14日 16:00~
講座費 毎回1000円 @毛利塾(汐入町)
横須賀の魅力を発信する講座と意見交換
申し込みは mourijuku@jcom.zaq.ne.jp

会員募集中 年会費 1000円：寄付・賛助会員募集中